

協定校留学報告書

記入日	令和 5 年 3 月 25 日
学部・学科	人文社会科学部現代社会学科
学年	4 年次
(留学開始時の学年)	4 年次
留学先大学・国名	静宜大学・台湾
留学開始・終了時期	令和 4 年 9 月 ~ 令和 4 年 2 月 (6 カ月)

※私の体験は「中国語初心者」「4 年生での留学」のものになるため、それ以外の方にとってはあまり参考にならないかもしれません。ということを最初にお断りしておきます。

1. 留学前について

① 海外留学しようと思った理由は何ですか
幼い頃から好奇心だけは人一倍強かったです。「自分の見れる限り知れる限り、この世の全てを見てみたい」という気持ちがいつも自分の行動軸でした。「この世の全て」となると海外へ行くことになるのは必然です。そして学生のうちに自分が最大限できることは何かと考えたときに、真っ先に浮かんだのが「留学」でした。まず第一に、基本的に留学は社会人になってからだと実行するのが難しくなります。それに加えて、実際にその土地に長く住み、現地の人や習慣に触れ、自分や住んできた地域や日本を別の視点から見つめ直すことができる。留学ではそういった、旅行や観光だけでは得られない体験ができると考えました。また留学に行く前の自分と行った後の自分では、確実に何かが変わっているという確信もありました。留学の先にある景色や自分を見てみたい。これは大学生の今しなければならぬことだなという思いが強くなりました。
② この協定校に決めた理由を教えてください。
「3 年次で留学をする」という具体的な目標まで立てていたものの、私が大学 2 年次の時にコロナ禍に突入してしまったため留学を諦めざるをえない状況になりました。一時は諦めましたが、3 年次の冬頃になってもしかしたらできるかも…?? という話に変わりました。4 年次で、私の置かれている状況で、できる可能性はかなり低いと自分でも分かっていました。それでも「絶対に行きたい」となんとかする覚悟を決めました。しかし、「留学できない」と分かってから英語へのモチベーションが消えてしまったこともあり、申請時点では応募要件に届くスコアも資格もありませんでした。加えて欧米圏は留学生自体を依然拒否している学校が少なくない状況でした。そんな中、台湾・静宜大学の「応募要件なし」「受け入れ可能」がまず何よりも目を引きました。日本と歴史的な関わりが深く、常に「中台関係」など社会的なニュースの中心にいる台湾自体にももちろん興味があったのもあります。「英語ができる人はたくさん日本にいるけど、そんな中で中国語ができる人がいたら結構面白いんじゃないか」そんな軽い気持ちも手伝って、静宜大学へ留学することにしました。
③ TOEFL の受験対策など、語学の準備はどのようにしましたか。
私が留学したときは語学要件がなかったのが幸いでした。申請時点で台湾の中国語のテスト、TOCFL などの資格は持っていませんでした。中国語に触れた経験と言えば、大学 1 年生の時の初修外国語の授業で半年間中国語を履修していたくらいでした。やはりそれではかなり心許なかったため、1 年生の時習っていた先生にお願いし、4 年生の前期に再度中国語の講義を受講させてもらいました。現地の語学学校は初心者レベルからあったので助かりましたが、もっと勉強してから来るべきだったと今では反省しています…

④ 単位や教職、就職活動等に関して、留学前にしておいたほうがいいことがあれば教えてください。
休学せずに 4 年間で卒業しよう、4 年生のうちに留学に行こう、となると、1 年次～3 年次とはちがった多くの準備が必要になります。まず卒業後就職したいのであれば、就職活動を先に終わらせる必要があります。私の志望していた業界は他の一般企業と比べてかなり選考が早かったのもあって、3 年次の夏前から取り組みはじめ 3 年次の 2 月には内定をもらうことができました（ここで決まって本当に良かった…）。加えて、留学期間は留学に全力を注ぎたかったので卒業論文を 4 年次の前期までに書き上げ、特別に卒論最終発表会を夏に開いていただき、単位をもらいました。ゼミ自体も 4 年次の後期分を取る必要があったため、同じメディア文化メジャーの先生にお願いし、4 年次の前期に「ダブルゼミ」をしました。こういったスケジュールだったため、3 年次後期～4 年次前期はかなり忙しかったです。先例のない形でもあったので、万が一にでも卒業ができないなんてことがないように学務の方に色々相談や確認を行いました。何より指導教員の先生の助けがなければとても実現できないことなので、私のような状況から留学を実現させるためには前々から周りの人と話し合っておく必要があると思います。
⑤ どのような保険に加入しましたか。（ ）に○をつけてください。
a. 留学先大学が指定した保険（ ○ ） b. 個人の保険のみ（ ） c. 大学指定の保険と個人保険の両方（ ）
⑥ 予防接種は必要でしたか。（ ）に○をつけてください。
a. はい（ ） 具体的に： b. いいえ（ ○ ）
⑦ 留学先への入国手続きについて、どのように準備しましたか。 （査証申請手続きや新型コロナウイルスにかかる水際対策対応の手続き等）
東京にある「台北駐日経済文化代表処」という場所で半年間の交換留学生の枠でビザを取得しました。当時はコロナ禍ということもあり、建物に入れる人数が制限されていたため、「営業時間に行ったらもうすでに制限人数いっぱいわざわざ遠くから来たのに帰らされた」「朝 5 時から並んでやっと整理券を取得できた」という声が聞こえてくるような過酷な状況でした。唯一木曜日（確か）だけが予約制だったため、一週間前からネット上の予約争奪戦を勝ち抜き、なんとか取得することができました。今これを読んでいる人はここまで大変ではないと思いますが、何が起るか分からないので「予定していたのに行けなくなってしまった…」なんてことがないように準備は早め早めしておくべきだと思います。何か起こったとしても時間的な余裕さえあれば大抵はなんとかなると思います。

2. 留学先での勉強について

① 留学先で履修した科目名、時間数、授業内容についてなるべく詳しく教えてください。
平日は毎日朝 9 時から 12 時まで大学内の語学学校で中国語の授業を受けていました。人数は 10 人ほどの少数だったのが良かったです。講義についてははじめは英語で、慣れてくると中国語に変わりました。私のクラスではテストが毎週ありましたが、テストをほとんどしないクラスもあったようで、その雰囲気にはかなりばらつきがあります。コースは二通りあり、私の場合は中国語の授業以外にも大学開講の授業を 3 単位分取ることができました。午前中は語学学校なので、午後開講の授業から選択します。全て中国語の授業はもちろん、留学生向けの英語の授業も充実しています。日本語学科の授業もあるため、単位が気になる人や、息抜き代わりに取得している人もいました。私は基礎英語の授業 1 つと、本格的な英語の授業 1 つ、日本語の授業を 1 つ取っていました。授業内容もちろん大事でしたが、何より友達づ

りの側面が大きかったと思います。結果それぞれの授業で、根っからの台湾人、外国人、日本語を話せる台湾人の友達ができました。

② 授業履修の際に、注意したほうがいいことがあれば、なるべく具体的に教えてください。

語学学校については、はじめにクラス分けがあります。最初の一週間は移動ができるので、先生やレベルが合わないと思ったらクラスを変えることができるのですが、私は隔離期間で出遅れ、クラスの変更をすることができませんでした。しかしその事実は入ってから分かったことだったので、どうしようもできませんでした。大学開講の授業でいえば日本の大学と同じで、履修登録期間内にシステムによる履修登録が必要なので、どんな授業なのか事前にシラバスを確認しておく必要があります。中国語が不十分な場合は内容を把握するのに時間がかかると思うので注意が必要です。そして一度登録した授業は基本的に取り消しができません（1つのみ取り消し可能）。履修前によく考える必要があります。3つまで取得可能ですが、単位に困っていない場合は無理に取得する必要は無いと思います。私はぎりぎりまで取ってしまったため、テスト期間中はかなり忙しくなり、余裕がなくなっていました…こうした状態になるのを避け、「中国語の勉強に集中したい」と学部授業をあえて取得しない人もいました。

③ 授業に関して、困ったこと、うまくいったこと、努力したことなど、教えてください。

中国語を現地で受け始めたときは、授業だけではとても足りませんでした。中国語を勉強して初めて、英語はかなり分かる方だったということに気づきます。たとえば「りんご」と言いたいとき、英語は「Apple」とぱっと出てきますが、中国語にはこの「ぱっと」がないので、とにかく単語を覚えまくる作業期間が必要になります。授業で文法はなんとなく分かって、日常で使う単語については全くといっていいほど分からないのです…さらに、習った表現をいざ現地の人の前で発音してみるとはじめは全くといっていいほど通じません。特に私は単語について「あ↓」と出せばいいのか「あ↑」と出せばいいのかすら分からないような状態からのスタートだったので、そのせいかタピオカミルクティーを頼んだはずがタピオカが入ってないなんてこともありました。そこで私は「日本から持ってきた」、「例文の載っている」、「音声付きの」、「かなりやさしめな」参考書を留学前半で4周しました。まず日本で一冊買って下さい。学校の中国語の教科書は解説が全て英文表記なので、よっぽど英語ができない限り理解に不安が残ると思います（ネット上で日本語訳を載せてくれている優しいサイトもありますが、個人がやっているものなのでたまに間違っている）。私は参考書に載っている例文を全部、音声の通りにとにかく覚えることを心がけていました。学校に行くときも、お風呂に入っているときも、寝る前も、頭で思い浮かべたり、口ずさんだりして覚えしました。机の前にベタベタ黄色い付箋を貼ったりもしました。この時、難しい参考書でトライしてしまうとできない自分にいちいち失望したり（はじめはできなくて当たり前）、いつまで経っても難しく覚えられない…使えない…といったことになりかねません。優しい＝基礎は固めれば固めるほど上に積む物が揺らなくなります。実際にやってみて、それを実感しました。しかも授業や日常生活と並行して同じ本を何周もしていると、不思議なことに毎回新しい気づきや学びがあります。1つの本が軸にあるので、相対的に自分の成長にも気づくことができます。留学前半である程度基礎の基礎が固まったので、留学後半からは授業でやる教科書の文章をそのまま覚えるようにしました。例文をそのまま覚えてしまえば、あとは覚えた単語を入れ替えるだけでどんどん使える中国語になっていきます。おすすめの方法です。

[前期] 時間割

	月	火	水	木	金
1	中国語	中国語	中国語	中国語	中国語
2	↓	↓	↓	↓	↓
3	↓	↓	↓	↓	↓
4				日本近代文学	

				(日本語)	
5		Travel English (英語)	海洋環境 (英語※ 留学生向け)		
6					

[後期] 時間割

	月	火	水	木	金
1					
2					
3					
4					
5					
6					

3. 留学先での生活について

① 大学がある町やキャンパスの雰囲気はどうでしたか

ザ・学生の街という感じでした。大学の前の信号を渡った1つ奥の道がフードストリートになっており、朝～夜ご飯は全てここで済ませることができます。台湾といえば！の飲み物屋さんも充実しています。学内のレストランは3カ所あり、各々お気に入りの店があります。お昼になるとどこも混みます。日用品を揃える分には大学付近で問題ないですが、ショッピングとなると台中市まで出かける必要があります。台中市は台湾第2の都市と言われているくらいなので、そこまで出れば何でも揃いますし、台湾中部に位置するので台北でも高雄でも割とどこでも気軽に行くことができます。静宜大学からバスで1時間ほどかかりはしますが、申し分ない立地だと思いました。さらに台中市はほぼ毎日が晴れマーク。留学していた期間で傘を使ったのは片手に収まる回数です。一方冬の台湾北部や東側（台北や宜蘭）はいつも雨が降っていました。私は茨城大学の水戸キャンパスにずっと通っていたのですが、静宜大学は水戸キャンパス×5つ分を優に超えるくらい広いです。「憧れのキャンパスライフ」という雰囲気のある大学なので、コロナで青春が失われた身としては個人的にかなり満足でした。ただ、平地ではなく山です。「静宜山」と勝手に命名していましたが、入口からピークの建物まで行くには下手すると30分ほどかかると思います。登山部がトレーニングで学内一周を取り入れているのも頷けます。

② 留学中はどこに住んでいましたか。

a. 寮 (○) : 何人部屋でしたか (2, 3 人)

b. アパート () : 何人部屋でしたか (人)

c. ホームステイ () : 何人部屋でしたか (人)

d. その他 () 具体的に:

③ 住むところはいつ頃、どのように申し込みましたか？また、どのような選択肢がありましたか？

留学前に申請フォームから申し込みました。大学外の寮と大学内の寮どちらかです。1人がいいか、それ以外でもいいかを聞かれたと思います。大学が振り分けた寮に住みます。

④ 住環境（建物の場所、お部屋の間取りや設備、ルームメイト等）はどうでしたか。

2回寮を引っ越しました。1つ目の寮は学外の寮で、大学まで徒歩20分ほどかかります。9～12月ごろまで通いました

が、台湾は基本的に暑いので、暑い中長距離を歩く（しかも大学からは山登り）のはかなり疲れました。寮の目の前にバス停があり、帰りは楽々なのですが、行きは大きな道路を渡って反対側まで行く必要があります。はじめは歩いていましたが、バスで通うようになりました。後述しますが、バスは 10 キロ圏内タダになるのでお金の心配はいりません。2 人部屋で、日本人の女子学生と相部屋になりました。2 段ベットと 1 人 1 つずつ机があります。暖房はついていませんが、無くても我慢できる寒さです。1 月の春節期間、管理人がいなくなるからとほぼ全員が寮からの退去を求められ、大学内の寮に移動しました。この情報は渡航前には聞いていませんでした（聞くところによると毎回長期休み期間はそうなるらしい…）。そこで 3 人部屋になりました。事前に申請し、元々相部屋だった人と部屋を合わせることができました。

⑤ 食事はどうしましたか。

- a. 大学・寮のミールプラン（ ）
- b. 主に外食（ ○ ）
- c. 自炊と外食が半々程度（ ）
- d. その他（ ）具体的に：

（補足説明）

台湾は外食文化のため、寮にも学生用アパートにも基本キッチンはありません。自炊するのは難しいと思います。しかしその分おいしいご飯を外で安く食べられるので心配はいらないです。

⑥ 留学先で他の留学生や現地学生とどのように交流を深めましたか。

渡航後 1 週間後に登山部に入部しました。登山が何よりも好きで、台湾も登山大国のため、行く前から入ると決めていました。自分の好きが先に立ちましたが、結果的にこれが良かったと思います。私は授業以外、部活の場で生きた中国語を学びました。部活は留学生や台湾人や OB・OG…とにかく色々な人がいますし、会話も中国語オンリーになります。しかも登山部に入部した日本人は私 1 人だったので、いよいよ中国語を話さなければどうにもならない状況に、自分を追い込んだ形になりました。平日も活動がありますし、週末は山登りで泊まりがけの中国語合宿状態です。「これを言いたい！」「伝えたい！」と思ったフレーズは LINE の keep メモにすぐメモし、次は使えるように復習しました。部活は毎週、決まった時間にあるので、モチベーションが途切れることもありません。何より良かったのは「山が好き」という思いを共通に持つ人たちと交流することは全くストレスにならなかったことです。好きなことだからです。前向きに中国語を習得できるという点で良かったと思います。

⑦ 余暇や長期休暇はどのように過ごしましたか。

前述したように登山部に入部したので、毎週末山登りをしていました。私の行った期間では 11 月に 4 日間、1 月に 3 週間の長期休みがありました。私は中国語を学びたいという思いはもちろんありましたが「台湾を知る」ということが一番の目的だったので、できる限り見て回ろうと思い、自転車で澎湖諸島と台湾を 1 周しました。11 月に選挙があったので、台北まで見に行きました。春節期間は台湾人の家に招いてもらい、台湾の新年を満喫しました。中国語のレベルはまだまだでしたが、とにかく色々な場所へ行き、様々な人と交流しようと努めました。台湾の「今」を、自分の目でできるだけまんべんなく見ることができたと自負しています。ただ後半は出かけすぎて、中国語を座って勉強する時間がかなり減ってしまいました。日本にいるときは授業やレポートやバイトや就活や免許や帰省…などなどに日々忙殺されて、自分が本当に好きなこと（私で言えば山登りや自転車旅や一人旅）に向き合える時間が少なかったように思います。留学したなら自分をとことん解放して、好きなことを好きなだけやるべきだと思います。

⑧ 健康管理や危機管理で注意したことについて、アドバイスがあれば具体的にお願いします。

留学中も寮で何人かコロナが出ました。感染者はすぐに隔離されていたものの、トイレやシャワーは基本共有だったので正直かかってしまった状態だったと思います。加えて濃厚接触者は普通に学校に来ていたので、とにかく自衛が必要だと

思いました。1 週間も隔離されては貴重な留学期間なのにもったいないです。山で一度滑落し、外傷はほとんどありませんでしたが一応脳の検査を受けることになりました。全部で 2 万円ほどかかってしまいましたが、保険が下り全額返ってきました。ただ私の行った病院は指定外の病院だったらしく、手続きが煩雑になってしまったので、もしもの時のために対象の病院についても把握しておく必要があると思います。加えて外国人が病院に行くときはパスポートが必要なので忘れないで下さい。海外旅行保険の紙も持って行って下さい（忘れて泣く泣く取りに帰るはめになったため）。

一度スマホを無くしましたが、誰かが警察に届けてくれたので無事に返ってきました。「海外でものを無くしたらおしまいだ」と思っていたので驚きました。ただ「iPhone を探す」機能が無ければ警察に届いていることすら分からなかったと思うので、もしもの時のために事前にこうしたデバイスの設定と確認をしておくことをおすすめします。

⑨ 文化、習慣、宗教の違いなど、生活全般（衣食住）に関するアドバイスがあればお願いします。

服はなるべく少なくするのに限ると思いました。私自身あれもこれもたくさん持って行ってしまったのですが、高望みしなければ現地でも安く買えます。引っ越しや移動をする機会も多いので、服が多いとそれだけで大変です。台湾は 12 月頃まで温かく、12 月後半～1 月に数日、南国か疑うほどの極寒の日がありますが、数日だけ我慢すれば暖房なしで過ごせるくらいの気温です。2 月からはもう春です。そのため買うと高くなってしまふもの（ニットや羽織など）だけ持って行けば良いと思います。丈の長いコートは台湾ではあまり見かけません（バイク文化のため？）。バイクに乗せてもらう機会もあるかもしれないので、コート系は丈の短い物を重宝することになると思います。冬のバイクはそれなりに寒いので台湾の人はダウンをよく着ています。マフラーは使うほどの寒さではないのでいらないです。日本では安い服の代名詞である GU やユニクロは台湾では高級品なので、エアリズムやヒートテックは持って行ったほうが良いかもしれません。登山でいうとモンベルも高額です。日本の 2 倍以上はします…台湾の冬山は普通に極寒なのでアウトドアをしたい人は事前に持っていくと無駄な出費が減ります。私はテントを日本から持っていきましたが、台湾一周旅のときに役立ったのでそういった趣味がある人はぜひ。

4. 留学費用について(差支えない範囲でお答えください)

※各費用の下の空欄には補足事項をご記入ください。どんな些細な情報でも大歓迎です。

留学前

査証申請費	6000 円
渡航費(往路航空運賃)	100000 円
コロナ禍ということもあり高かったです…	
海外旅行保険代（出発前に日本で加入したもの）	55000 円
コロナ水際対策費用（陰性証明書、隔離費用、移動費等）	86000 円
隔離ホテル代 75000 円+健康診断書 11000 円	

留学中

授業料（有料コースを受講の場合）	130000 円

授業料以外の学費（教材費や登録料）	20000 円
現地で加入した保険料	
住居費（寮費）	50000 円
住居費（寮費以外の費用、光熱水料やインターネット）	25000 円
食費（自炊・外食の有無）	大体 500～1000 円（1 日 3 食の場合） 外食です
通信費（SIM カードや現地でスマホ購入等）	円
交通費（通学に必要なバスや休日市内での公共交通機関）	円 バスは学生証と紐付ければ市内 10 キロまで無料になります。チャージはコンビニでできます。
娯楽費（国内旅行に行ったり）	200000 円 台湾一周、毎週登山、島に行くとこのくらいかかると思います
その他生活費	円
渡航費(袋航空運賃)	円
留学先でのお金の管理方法（クレジットカード、デビットカード、現地での口座開設等）	
奨学金がゆうちょに入ってくるため（台湾ではゆうちょが使えない）、日本にいる親に頼み、ゆうちょから引き出し→三井住友のキャッシュカードに振り込み直してもらうという面倒な手続きを踏んでもらっていました。電子マネーに関して、LINE ペイは使えますが、PayPay は使えません。台湾もまだまだ現金社会だなと感じる場面が何度もありました。	

留学経費の負担について

留学のための奨学金等や助成金を利用した場合は以下もご記入ください	
奨学金名	古野奨学金、日本学生支援機構
応募方法	古野奨学金→学校の推薦、日本学生支援機構→授業料免除と併せて個人で申請

家からは一切仕送りが無かったので、留学資金はすべて奨学金でまかっていた。初期費用さえなんとか工面できれば、奨学金だけで留学に行くことも国によっては可能だと思います。

5. 今後の進路等について

① 卒業時期について教えてください。（わかる範囲で結構です）○をつけてください。

- a. () 4年で卒業予定
 b. () 卒業は延期する予定 (延長予定期間:)

② 就職・進学のための活動について教えてください。(留学中にしたこと、留学後の予定など)

4年生だったからこそその利点を書こうと思います。「就職・進学のための活動について」考えなくてもいいことです(笑)。周りの日本人留学生は3年生がかなり多く、留学も終盤になってくるとみんな「就活どうしよう…」と悩み、場合によっては日本でどんどん進む就活と、時間がゆっくり流れる台湾留学のギャップに病んでいく人もいました。私もその将来が決まらず追い込まれる気持ちは経験済みなので十分分かります…ただこと留学するにおいてはその時間がすぐもったいないと感じました。せっかく日本を離れて留学に来ているのに、頭を占めるのはそのことばかりとなると、自分を解放するにも解放しきれません。私は進路が決まっていた分、その辺かなり自由度高く楽しめたのではないかなと思います。少し話は逸れますが、その時「3年生になったら就活しなければならぬ」という日本の社会的な圧力はものすごい力を持っていると思いました。私の見聞きした限りですが、日本人ほど「3年次の就活」にこだわり、その常識に縛られ追い込まれている人は台湾人にも他の国の留学生にもあまりないように見受けられます。私もそのうちの一人だったのでなんとも言えませんが、ただ3年次で留学に来るのであれば、「休学でもして留学期間引き延ばしてみようかな」くらいもっと自由に考えて、思いっきり楽しむことに時間を使ってもいいのではないかなと思いました。

6. 留学について

① 留学を終えての感想を教えてください。

とても濃密な半年間でした。渡航前はほとんど中国語が話せない状態でしたが、今日常会話程度であればなんとかできるレベルにまでなりました。渡航前は「半年で伸びるのかな」と不安でしたが、やってみた結果十分伸びると思います。そうした語学スキルはもちろんですが、台湾という土地で体験した日常、出会い、発見、自然…全てがかけがえのない宝物です。私は日本人として生まれ育ってきましたが、水平線の向こうでも私と同じように、みんな泣いたり笑ったりしながら日々を営んでいるのだなあという、当たり前的事实を実感として得ることができました。日本から、国や地域という枠組みだけを見てその国の人や場所を知ったつもりになるのは少し危険です。実際にその土地を踏み、そこで生きる人々と対話することでしか見えてこないものがあるということを知りました。将来仕事をする上でもこの感覚を忘れないように心がけたいです。

② 留学して、何が変わったと思いますか。

「自分の変を貫こう」と思えるようになったことです。人から「変」といわれることは、あまり気持ちいいものではありませんでした。日本では、知らず知らずのうちに周りから「変」と見なされるものを自分の中で押し殺していたように思います。私は台湾に行ってから、とにかく自分の好きなことをやろう、なんでも見てやろうと動きに動き回りました。週末は山に行き、自転車で動き回り、時には授業を休んだこともありましたが(どうしても今自分に必要なことだと思い、授業よりも優先すべきと判断したからです。積極的におすすめはしませんが…)。あるときその様子を見ていた同じ日本人の留学生に「もう少しちゃんとしたほうがいいよ」と言われたことがありました。確かに自分でもかなり落ち着きがないことは分かっていました。「私やっぱりおかしいよね」「ちゃんとしなきゃ」。分かっていたからこそ、投げられた言葉に息苦しさを感じていたときです。それを見ていた同じクラスのスペイン人の女性が授業終わり私に駆け寄り、「気にしなくていいよ。あなたはやりたいことをやりな!」と言ってくれたのです。そのとき人から「変だ」といわれることとは、自分しか持つことのできない強烈な個性とも言えるのではないかなと思えるようになりました。「変」といわれるくらいですから、「みんな」からは多少外れているわけです。個性は「みんな」と違ってはじめて個性たりえます。その時ようやく自分の「変」な部分を受け入れることができ、真に解放された気持ちになりました。台湾で見つけた私だけの個性を、この先も大切にしていきたいと思っています。

③ 留学を考えている人へのメッセージをお願いします。

やるかやらないか迷ったら、絶対にやってみるべきだと思います。私自身 1 年前まで、まさか台湾に留学して中国語を勉強することになるなんて思ってもみませんでした。就職活動も終わっていない、卒論もゼミもどうする、お金も足りない…4 年生だからこそ葛藤や迷いがたくさんありましたし、色々な人から色々なことを言われたりもしました。しかし振り返ってみて、あの時本当に必要だったのは「やってみたい！」という自分の気持ちだけだったと思います。自分で納得して決めた道であれば覚悟を決め、あとは実現に向けて動くのみです。あの思い切った決断がなかったら、あんな経験も、体験も、あの人やこの人に出会うこともなく、今こう考えている私もいなかったと思うと、なんだか不思議な感じがします。留学の先には、貴重な体験や出会い、新しい自分が待っていました。もし決めきれない人がこの文章を読んでいるのであれば、常識や他の人が言うことは一旦脇に置いて、自分の内なる声だけに耳を傾けてみて欲しいです。どうしたいかは自分自身で決めて下さい。

最後に私が何か手伝えることがあれば、できる限り何でもお話ししますのでぜひ声をかけて下さい！